

21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

PRESS RELEASE

2024.10.31

金沢21世紀美術館は開館20周年を迎えました。

金沢21世紀美術館は2004年10月9日に開館しました。

今秋、開館20周年を迎えるにあたり、長谷川祐子館長よりメッセージをお伝えします。

併せて、この20年間の入館者データ、記念事業等をお知らせいたします。

ごあいさつ

2004年に開館した当館も今年で20周年を迎えます。これまで延べ3300万人を越える皆さんにご利用いただきました。そのお一人おひとりに心から感謝申し上げたく思います。サスティン会員、友の会、市民の皆様や近隣の商店街の皆様、本当にありがとうございます。そして素晴らしい作品を展示あるいは収集させていただいたアーティストの皆さんに心から感謝しています。

当館は、「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」を目的に、開設されました。

この20年の間、当館は文化芸術を通して市民と共に作る“まちの広場”として、金沢の新しいアイデンティティ、ランドマークの一つとなりました。同時に世界の様々な“今”の表現を紹介する場、このまちに新しい価値を創り出す刺激的な場としての役割も果たしてまいりました。

2021年の館長就任以来、現在の状況に鑑み、1.アートの民主化 2.多声唱和/多様性 3.未来への志向 4.相互作用と相互共生 という4つのキーワードを掲げ、「開かれた」の意味をアップデートいたしました。「人新世」問題への反省から脱人間中心主義をめざし、領域横断的な対話と創造を通して、動物や植物、モノやAIなどとの関係を再考する「新しい人間学」とでも呼べる領域を作ることの大切さを示してまいりました。

近年では、2020年のコロナウイルスのパンデミック、さらに今年元日の能登半島地震とわたしたちの価値観を揺るがす出来事が続き、美術館の運営も休館を余儀なくされるなど大きな影響を受けました。自然、社会、心理、情報など私たちをとりまく新たなエコロジーの中で、芸術はどのような役割や新展開をとげていくのか。こうした時代の中にあって、金沢21世紀美術館が改めて、「学びと、感性を育てる共感のプラットフォーム」として“未来支度の館”の役割を果たす大切さを痛感しています。

20周年を迎えましたが、この基本的な考えは決してぶれることはありません。当館は「生きられた」美術館として、この時代そのものを創造する場、新たな想像力との出会いの場でありつづけたと思っています。

これからの10年を、その先22世紀を見据え、新たな価値を築く場所として活動してまいります。これからも21世紀美術館を愛し、支えていただけますようよろしくお願い申し上げます。

金沢21世紀美術館館長 長谷川祐子



本資料に関する
お問合せ

金沢21世紀美術館 広報課：落合博晃、吉富智大、石川聡子
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<https://www.kanazawa21.jp>
E-mail: press@kanazawa21.jp



20th Anniversary

開館20周年を機に、現在下記の記念事業を展開、準備しています。

1. 受付・監視スタッフのユニフォームのリニューアル(2025年2月)

受付・監視スタッフのユニフォームをCFCLのデザインによりリニューアルします。

新ユニフォームのコンセプト

学生の頃から何度も訪れている金沢21世紀美術館。現代美術作品の緊張感や建物の透明感が織りなす清々しさ、そして、街に溶け込むような親しみやすい開放感。「私の記憶の中に残る印象」がインスピレーション源です。水平ガラスをイメージした涼しげで柔らかい色彩のポーターに、美術館のアイコンカラーであるオレンジで建物を支える柱に見立てたストライプを背中に配しました。空間に馴染みながら、ユニフォームとして遠くからでも一目でわかるような視認性の高い大胆なグラフィックに仕上げています。次の10年に向けて普遍性を考慮したデザインは、チェスターコート、Tシャツがベースで、あらゆる体型を包み込むゆったりしたシルエットです。サイズ感やディテールは現場スタッフとの対話を通して、着心地や使いやすさの視点を反映しました。また、イージーケアや耐久性を優先し、環境や人権にも配慮された素材を選択しています。現代生活のためのユニフォームとして実用的なデザインになるように意識して取り組ませていただきました。(CFCL 高橋悠介)



プロフィール

高橋悠介 (CFCL代表兼クリエイティブディレクター)

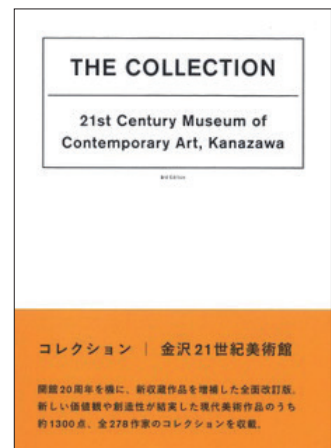
1985年生まれ、東京都出身。文化ファッション大学院大学修了後、2010年株式会社三宅デザイン事務所入社。2013年にISSEY MIYAKE MENのデザイナーに就任し、6年にわたりチームを率いる。2020年同社を退社後、株式会社CFCLを設立。2021年第39回毎日ファッション大賞 新人賞・資生堂奨励賞及びFASHION PRIZE OF TOKYO 2022を受賞。2022年よりパリ・ファッションウィークに参加。2024年には Vogue Businessにて「2024 100 Innovators: Sustainability thought leaders」に選出された。

2. 記念出版刊行物(2024年度内)

コレクションを形成することは美術館の中心をなす活動のひとつです。当館は新しい価値観を提案する作品、歴史的な参照点となる作品、金沢ゆかりの新たな創造性に富む作品という方針のもと、国内有数の現代美術のコレクションを築いてきました。このコレクションを改めて紹介する書籍を2冊刊行します。またこの20年間にキッズスタジオを中心に展開してきた造形活動のエッセンスを詰めたレシピ本を発刊します。

コレクション | 金沢21世紀美術館〈第3版〉

開館20周年を機に新収蔵作品を増補した、金沢21世紀美術館のコレクションカタログ第3版。新しい価値観を提案する作品、歴史的な参照点となる作品、金沢ゆかりの新たな創造性に富む作品という3つの収集方針のもと築かれてき



た、国内有数の現代美術のコレクションを記録した一冊。全所蔵作家278名についての解説と作品の情報を収録し、約1300点の作品図版を収載。

[書籍概要]

価格：4,400円(税込)

仕様：142×210mm/777頁/並製フォローバック

発行：株式会社マイブックサービス

言語：日本語、英語

そうさくのたね 子どもと大人の〈工作×アート〉アイデアブック

金沢21世紀美術館が開館以来20年の間にキッズスタジオで実践してきた子ども・親子向けプログラムを元にした、工作と遊びのアイデアが詰まった本。週末の「ハンズオン・まるびい!」と平日の「すくすくステーション」で取り組んできた造形表現のアイデアもすでに200を超えている。この本ではそこから40種を選び、家庭で取り組みやすいようアレンジを加えて紹介する。金沢21世紀美術館が変わらず目指してきたもののひとつが「子どもたちとともに、成長する美術館」。これには、子どもと大人が一緒に過ごせる美術館という意味以上に、お互いの違いやそれぞれの良さを発見し合っるとともに成長する場でありたいとの願いが込められている。家庭やグループで楽しめる一冊。

価格：2,420円(税込)

仕様：B5変型(18.2×21×1.6cm)/192頁/ソフトカバー

発行：株式会社グラフィックス社

言語：日本語



金沢21世紀美術館のコレクションストーリー(仮)

年間200万人のアートファンが訪れる金沢21世紀美術館。まちに開かれたこの美術館では、恒久設置されている《スイミング・プール》などのコレクションも魅力のひとつ。訪れる人をわくわくさせる個性的な現代アートのコレクションはいかに形成されたのか——。開館20周年を機に、同時代のアートをコレクションすることの意味をあらためて問い、収集のストーリーを追う。

[書籍概要](予定)

発行年：2025年予定

価格：未定

仕様：四六判またはA5/240頁前後/並製

発行：株式会社 フィルムアート社

言語：日本語

3. 新ミュージアムグッズの販売(2024年度)

20周年を記念して、金沢21世紀美術館のミュージアムショップの商品に新たに2つのオリジナルアイテムが加わります。またこの期間のみ20周年の記念ロゴを印刷した梱包材を使用します。

美術館型コインチョコレート

美術館の形が刻印されたコインチョコレートが発売開始。初回500個限定で20周年ロゴ入りアクリルチャーム付。

5個入り：予価648円(税込)

14個入り：予価1,296円(税込)



20周年記念プレート付 SANAA「ラビットチェア」

金沢21世紀美術館の撮影スポットとして、SANAAデザインによるラビットチェアが知られている。このラビットチェアに20周年の記念プレートを付け販売。3サイズ、カラー8色のなかから好きなものを選べる。スタンダードサイズのみ館内で展示。

価格：35,200～59,400円(税込)※サイズ、カラーによって金額が異なります。

販売期間：2024年10月30日～2025年3月30日(予定)



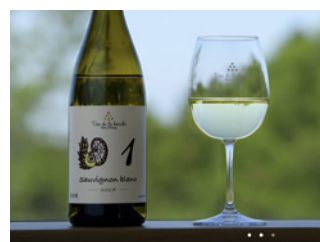
20周年仕様ショッパー

ショップで商品を購入された方に、開館20周年を記念した期間限定のショッパーで商品を梱包(一部有料)。なくなり次第終了。



4. 20周年記念ワインの配布(2024年11月)

金沢21世紀美術館では、20年間美術館活動にご支援いただいていたサスティン会員108社、アートdeまちあるきに登録いただいているサポートショップ139店の皆様方への感謝を表すために、日本たばこ産業株式会社の「Rethink PROJECT(社会貢献活動)」のご支援を受け、障害者の方が働く金沢市内のワイナリー「ヴァン・ド・ラ・ボッチ」のワインをお配りいたします。



金沢21世紀美術館20周年記念プログラム

開館20周年を記念して下記のプログラムを実施します。

1. 開館20周年記念展 すべてのものとダンスを踊って—共感のエコロジー

言葉のコミュニケーションを超え、五感と直感を駆使して、生きとし生けるものがダンスを踊るようにつながっていく共感のエコロジーを模索します。

11月2日(土) — 2025年3月16日(日)



2. 発酵文化芸術祭 金沢 —みえないものを感じる旅へ

金沢21世紀美術館と地域の醸造蔵を舞台に、目にみえない「発酵」をテーマに作品をつくりあげます。

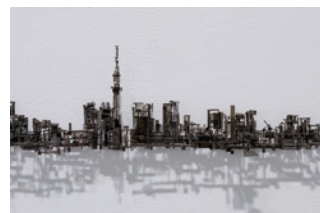
開催中 — 12月8日(日)



3. コレクション展2 都市漂流

開館20周年にあたり、一年を通して美術館の最も重要な役割であるコレクションについてご紹介する大規模なコレクション展を年間を通じて開催しています。今回は都市における個人の体験に焦点を当てた作品群を展示。

開催中 — 2025年1月19日(日)



久野彩子 (skylines-TOKYO-) (部分) 2019
photo: Keizo Kioku

4. 市民美術の日 オープンまるびい2024

金沢市民は美術館主催展覧会が無料でご覧になれます。この日にあわせて、様々な企画を準備。美術館を楽しみ尽くす一日です。

11月3日(日・祝) 10:00~18:00



5. 金沢21世紀美術館での20年間の思い出 募集

当館にまつわる20年間の思い出を募集しております。お寄せ頂いた思い出は、当館特設サイトでご覧いただけるようにするとともに、市民美術の日「オープンまるびい2024」でビックデータ化して発表します。



20年間のデータ

1. 20年間の主な出来事

2004 (平成16) 年	10月	金沢21世紀美術館オープン (9日)
	11月	ミュージアム・クルーズ開始
2005 (平成17) 年	3月	前田家ゆかりの茶室「松涛庵」と、「山宇亭」の一般公開開始
	6月	入館者100万人達成 (247日目)
	10月	開館1年目入館者157万人達成
2006 (平成18) 年	4月	金沢湯涌創作の森と施設連携開始
	10月	金沢能楽美術館と施設連携開始
2007 (平成19) 年	4月	秋元雄史が館長に就任 国際アドバイザーに2名追加委嘱 (計6名)
2009 (平成21) 年	10月	金沢21世紀美術館 開館5周年
2010 (平成22) 年	3月	開館5周年記念としてオラファー・エリアソンによるコミッションワークを新設
2011 (平成23) 年	8月	入館者1,000万人達成
2014 (平成26) 年	10月	金沢21世紀美術館 開館10周年
2015 (平成27) 年	1月	スタッフ着用ユニホームのデザインを変更 (デザイン: 皆川明 ミナ ペルホネン)
2016 (平成28) 年	11月	開館10周年記念として妹島和世+西沢立衛/SANAAによる 球体のパビリオン「まる」を新設
2017 (平成29) 年	1月	入館者数2,000万人達成
	4月	島敦彦が館長に就任
2019 (平成31年)	3月	奥能登国際芸術祭実行委員会、 金沢21世紀美術館と金沢美術工芸大学により 連携・協力協定を締結
	4月	「市民美術の日」を「文化の日 (11月3日)」に設定
2019 (令和元) 年	10月	金沢21世紀美術館 開館15周年
	12月	総合案内、トイレ等の改修工事を実施 (20日~2020年2月3日)
2020 (令和2) 年	4月	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う全館休館 (14日~6月18日)
2021 (令和3年)	4月	長谷川祐子が館長に就任
	5月	石川県独自の新型コロナ緊急事態宣言を受け全館休館 (30日~6月11日)
2022 (令和4年)	6月	入館者3,000万人達成
2024 (令和6) 年	1月	能登半島地震により展示室内のガラス天井が落下するなどの被害が発生、 全館休館 (2日~2月5日)
	10月	金沢21世紀美術館 開館20周年

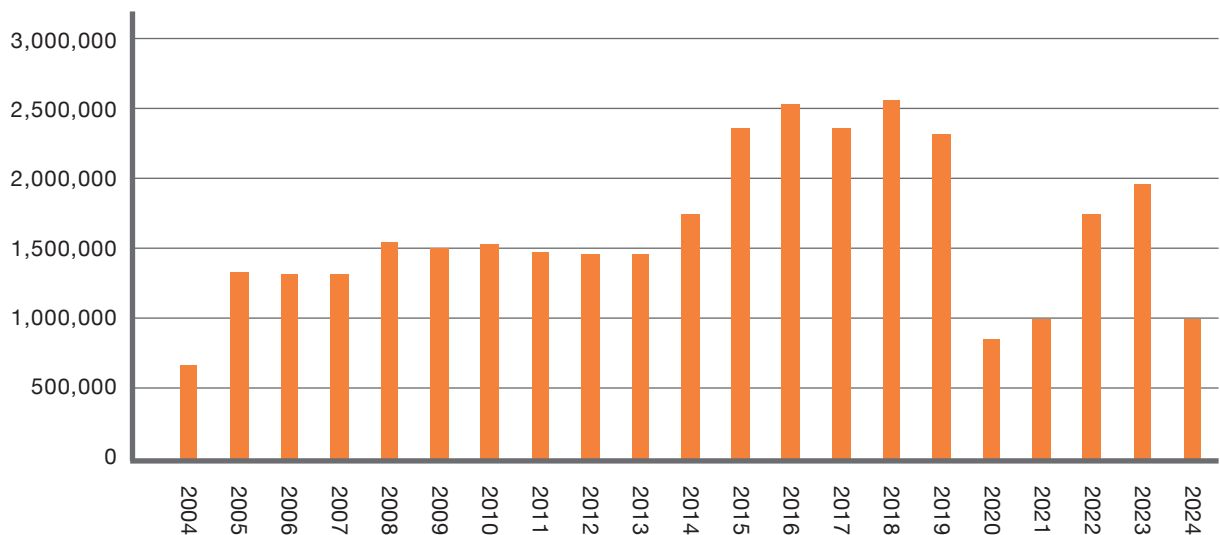


20年間のデータ

2. 入館者の推移

年度	総入館者数	有料ゾーン入場者数	有料入場者割合
2004(平成16)年度(2004年10月9日開館)	682,193	250,422	36.71%
2005(平成17)年度	1,350,563	248,553	18.40%
2006(平成18)年度	1,329,587	350,046	26.33%
2007(平成19)年度	1,334,337	337,890	25.32%
2008(平成20)年度	1,566,033	411,803	26.30%
2009(平成21)年度	1,518,508	374,107	24.64%
2010(平成22)年度	1,549,651	342,017	22.07%
2011(平成23)年度	1,487,285	356,995	24.00%
2012(平成24)年度	1,471,487	346,469	23.55%
2013(平成25)年度	1,474,209	335,118	22.73%
2014(平成26)年度	1,761,324	394,920	22.42%
2015(平成27)年度	2,372,821	695,198	29.30%
2016(平成28)年度	2,554,157	603,359	23.62%
2017(平成29)年度	2,373,048	640,665	27.00%
2018(平成30)年度	2,580,591	604,990	23.44%
2019(令和元)年度	2,334,589	544,120	23.31%
2020(令和2)年度	871,150	254,855	29.26%
2021(令和3)年度	1,012,143	296,710	29.32%
2022(令和4)年度	1,763,982	556,068	31.52%
2023(令和5)年度	1,974,773	543,446	27.52%
2024(令和6)年度	993,504	204,595	20.59%
合計	34,355,935	8,692,346	25.30%

※開館満1年(2004年10月9日～2002年10月8日)の入館者 1,577,575人



※2024年度は9月末までのデータ

20年間のデータ

2. 有料主催展覧会ごとの入館者数

● 平成16(2004)年度

開館記念展『21世紀の出会い-共鳴、ここから』 10月9日～3月21日(開場137日) 250,422人

● 平成17(2005)年度

〈通常展〉

コレクション展示『アナザー・ストーリー』 6月3日～10月16日(開場123日) 42,357人

コレクション展I 3月21日～3月31日(開場10日) 10,629人

〈特別展〉

「妹島和世+西沢立衛/SANAA」展 「世界の美術館:未来への架け橋」展 4月29日～5月22日(開場22日) 41,763人

「マシュー・バーニー:拘束のドローイング」展 7月2日～8月25日(開場52日) 62,883人

「ゲルハルト・リヒター:鏡の絵画」展 9月3日～10月26日(開場46日) 41,276人

「Alternative Paradise ～もうひとつの楽園」展 11月5日～3月5日(開場99日) 49,645人

● 平成18(2006)年度

〈通常展〉

コレクション展I (4月1日～8月20日(開場123日) 57,062人

コレクション展II (9月1日～3月31日:開場173日) 76,447人

〈特別展〉

「人間は自由なんだから:ゲント現代美術館コレクションより」展 4月29日～8月31日(開場108日) 92,783人

「artificial Heart:川崎和男」展 9月16日～11月12日(開場50日) 48,565人

「リアル・ユートピア～無限の物語」展 11月23日～3月21日(開場93日) 75,189人

● 平成19(2007)年度

〈通常展〉

コレクション展II(H18.9月～) 4月1日～4月12日(開場10日) 6,863人

コレクション展I 4月28日～7月16日(開場70日) 38,235人

コレクション展II 9月15日～3月31日(開場171日) 90,101人

〈特別展〉

「我が文明:グレイソン・ベリー」展 4月28日～8月31日(開場110日) 76,296人

「パッション・コンプレックス:オルブライト=ノックス美術館コレクションより」展

8月1日～11月11日(開場91日) 84,132人

「荒野のグラフィズム:粟津潔展」 11月23日～3月20日(開場102日) 51,117人

「美の求道者 安宅英一の眼:安宅コレクション」展 2月29日～3月20日(開場21日) 21,106人

● 平成20(2008)年度

〈通常展〉

コレクション展II(H19年9月～) 4月1日～4月13日(開場12日) 9,757人

コレクション展I 5月27日～7月21日(開場49日) 19,180人

コレクション展II(～H21年4月12日) 9月13日～3月31日(開場168日) 90,658人

〈特別展〉

「ロン・ミュエック」展 4月26日～8月31日(開場111日) 173,207人

「サイトウ・マコト:SCENE(0)」展 8月2日～11月3日(開場82日) 77,816人

「金沢アートプラットホーム2008」 10月4日～12月7日(開場56日) 125,696人

「杉本博司 歴史の歴史」展 11月22日～3月22日(開場100日) 46,318人

● 平成21(2009)年度

〈通常展〉

コレクション展II(H20年9月～) 4月1日～4月13日(開場11日) 10,599人

コレクション展I 9月12日～H22年3月31日(開場169日) 84,560人

〈特別展〉

「愛についての100の物語」展ゾーン1 4月29日～8月30日(開場109日) 121,231人

「愛についての100の物語」展ゾーン2 4月29日～7月20日(開場73日) 68,746人

「未完の横尾忠則-君のものは僕のもの、僕のは僕のもの」展 8月1日～11月3日(開場83日) 83,760人

「オラファー・エリアソン:あなたが会おうとき」展 11月22日～3月22日(開場101日) 83,338人

20年間のデータ

● 平成22(2010)年度

〈通常展〉

コレクション展Ⅱ「shift—揺らぎの場」(H21年9月～) 4月1日～4月11日(開場10日) …………… 9,611人
コレクション展Ⅰ 9月11日～3月31日(開場169日) …………… 74,202人

〈特別展〉

「Alternative Humanities ～ 新たなる精神のかたち:ヤン・ファープル × 舟越 桂」展 4月29日～8月31日(開場110日) …………… 147,890人
「ベーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス」展 9月18日～12月19日(開場80日) …………… 70,505人
「ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー」展、「桑山志明展/Untitled: Tadaaki Kuwayama」 1月8日～3月21日(開場62日) 39,809人

● 平成23(2011)年度

〈通常展〉

コレクション展(H22年9月～) 4月1日～4月10日(開場9日) …………… 6,272人
コレクション展Ⅰ(特別展半券入場者数:62,832人) 4月29日～7月18日(開場71日) …………… 20,262人
コレクション展Ⅱ 9月17日～3月31日(開場167日) …………… 69,677人

〈特別展〉

「イエッペ・ハイン360°」展 4月29日～8月31日(開場109日) …………… 138,704人
「Inner Voices—内なる声」展 7月30日～11月6日(開場87日) …………… 96,251人
「モニック・フリードマン展」、「押忍!手芸部 と 豊嶋秀樹『自画大絶賛(仮)』」展 11月23日～3月20日(開場100日) …………… 63,245人

● 平成24(2012)年度

〈通常展〉

コレクション展Ⅱ(H23年9月～) 4月1日～4月8日(開場7日) …………… 5,768人
コレクション展(特別展半券入場者数:170,950人) 4月28日～11月4日(開場167日) …………… 90,565人

〈特別展〉

「工芸未来派」展 4月28日～8月31日(開場110日) …………… 114,222人
「ソリエリュミエール、そして叡智」展 9月15日～H25年3月17日(開場147日) …………… 119,467人
「ス・ドホ | パーフェクト・ホーム」展 11月23日～H25年3月17日(開場87日) …………… 58,793人

● 平成25(2013)年度

〈通常展〉

コレクション展Ⅰ(特別展半券入場者数:66,272人) 4月13日～7月15日(開場82日) …………… 36,078人
コレクション展Ⅱ(特別展半券入場者数:106,885人) 9月28日～3月16日(開場144日) …………… 33,324人

〈特別展〉

「内臓感覚—遠くテ近イ生ノ声」展 4月27日～9月1日(開場110日) …………… 109,908人
「フィオナ・タン | エリブシス」展、
「イザベル&アルフレド・アキリザン『住む:プロジェクト—もうひとつの国』」展 8月3日～11月10日(開場87日) …………… 125,389人
「柿沼康二 書の道“ぱーっ”」展 11月23日～3月2日(開場84日) …………… 64,404人

● 平成26(2014)年度

〈通常展〉

コレクション展Ⅰ(特別展半券入場者145041人) 4月12日～9月21日(開場142日) …………… 89,103人
コレクション展Ⅱ 9月13日～10月13日(開場27日) …………… 33,219人

〈特別展〉

「レアンドロ・エルリッヒ—ありきたりの?」 5月3日(土) - 8月31日(日)(開場105日) …………… 135,197人
「ジャパン・アーキテクツ 1945-2010」 11月1日 - 3月15日 (開場113日) …………… 82,940人
「ジャパン・アーキテクツ3.11以後の建築」 11月1日(土) -5月10日(日)(開場161日) …………… 195,143人

● 平成27(2015)年度

〈通常展〉

コレクション展Ⅰ(特別展半券入場者272,924人) 5月26日～11月15日(開場151日) …………… 133,960人
コレクション展Ⅱ(注)(特別展半券入場者数:134,328人) 11月28日～3月31日(開場103日) …………… 96,580人

〈特別展〉

「ザ・コンテンポラリー1 われらの時代:ポスト工業化社会の美術」 4月25日～8月30日(開場111日) …………… 170,106人
「ザ・コンテンポラリー2 誰が世界を翻訳するのか」
「ザ・コンテンポラリー3 Ghost in the Cell:細胞の中の幽霊」 9月19日～12月13日(開場74日) …………… 137,547人
「生誕百年記念 井上有一」
「ザ・コンテンポラリー3 Ghost in the Cell:細胞の中の幽霊」 1月2日～3月21日(開場69日) …………… 96,265人

20年間のデータ

● 平成28(2016)年度

〈通常展〉

コレクション展Ⅱ(特別展半券入場者数:23,184人)(4月1日～5月8日:開場34日) ……50,561人

コレクション展Ⅰ(特別展半券入場者数:118,737人)(5月21日～9月25日:開場111日) ……125,168人

コレクション展Ⅱ(特別展半券入場者数:91,953人)(9月10日～11月27日:開場69日) ……44,884人

〈特別展〉

「西京人—西京は西京ではない、ゆえに西京は西京である。」(4月29日～8月28日:開場107日) ……151,920人

「工芸とデザインの境目」(10月8日～3月20日:開場139日) ……248,235人

「トーマス・ルフ」(12月10日～3月12日:開場77日) ……82,345人

● 平成29(2017)年度

〈通常展〉

コレクション展Ⅰ(特別展半券入場者数:94,855人)(4月29日～7月23日:開場75日) ……24,982人

コレクション展Ⅱ(特別展半券入場者数:218,105人)(7月22日～1月8日:開場148日) ……116,080人

コレクション展Ⅲ(特別展半券入場者数:45,205人)(1月27日～3月31日:開場55日) ……65,843人

〈特別展〉

「池田学展—凝縮の宇宙—」(4月8日～7月9日:開場81日) ……150,990人

「日々の生活—デザインの思考範囲」 「ヨーガン・ルール」(8月5日～11月5日:開場82日) ……182,777人

「ジャネット・カーティフ&ジョージ・ビュレス・ミラー」(11月25日～3月11日:開場89日) ……103,471人

● 平成30(2018)年度

〈通常展〉

コレクション展Ⅲ(特別展半券入場者数:60,593人)(4月1日～6月24日:開場74日) ……80,308人

コレクション展 アジアの風景/粟津マクリヒロゲル5(特別展半券入場者数:106,645人)(11月3日～3月31日:開場125日) ……133,328人

〈特別展〉

「アイ・チョー・クリスティン 霊性と寓意」(4月28日～8月19日:開場100日) ……120,275人

「起点としての80年代」(7月7日～10月21日:開場93日) ……194,828人

「チウ・ジージェ 書くことに生きる」(9月8日～3月3日:開場150日) ……160,745人

● 令和元(2019)年度

〈通常展〉

コレクション展「アジアの風景/粟津マクリヒロゲル5」(特別展半券入場者数:28,670人)(4月1日～5月6日:開場32日) ……50,609人

「現在地:未来の地図を描くために[2]」

(特別展半券入場者数:91,161人)(10月12日～12月19日、2月4日～2月28日、3月17日～3月31日:開場95日) ……102,628人

〈特別展〉

「大岩オスカル 光をめざす旅」(4月27日～8月25日:開場106日) ……152,386人

「粟津潔 デザインになにができるか」(5月18日～9月23日:開場112日) ……216,094人

「現在地:未来の地図を描くために[1]」(9月14日～12月19日:開場84日) ……129,110人

〈主催事業〉

「消しゴム森」(2月8日～2月16日:開場9日) ……4,976人

● 令和2(2020)年度

〈通常展〉

コレクション展「現在地:未来の地図を描くために[2]」(4月1日～4月12日:開場11日) ……2,352人

コレクション展「スケールズ」(特別展半券入場者数:74,452人)(10月17日～3月31日:開場138日) ……90,345人

〈特別展〉

「内藤礼 うつつあう創造」(6月27日～8月23日:開場50日) ……19,506人

「de-sport: 芸術によるスポーツの解体と再構築」(6月27日～9月27日:開場80日) ……45,207人

「ミヒヤエル・ボレマンス マーク・マンダース ダブル・サイレンス」(9月19日～2月28日:開場112日) ……97,447人

● 令和3(2021)年度

〈通常展〉

「コレクション展 スケールズ」(特別展半券入場者数:10,603人)(4月1日～5月9日:開場34日) ……24,607人

「コレクション展Ⅰ Inner Cosmology」(特別展半券入場者数:41,716人)(6月15日～11月3日:開場70日) ……37,544人

「コレクション展Ⅱ BLUE」(特別展半券入場者数:76,255人)(11月20日～3月31日:開場109日) ……81,921人

〈特別展〉

「日常のあわい」(4月29日～7月30日:開場51日) ……38,385人

「ぎこちない会話への対応策-第三波フェミニズムの視点で」 「フェミニズム/FEMINISMS」(10月16日～3月13日:開場125日) ……114,253人

20年間のデータ

● 令和4(2022)年度

〈通常展〉

「コレクション展2 BLUE」(特別展半券入場者数:7,411人) 4月1日~5月8日(開場33日)40,736人

「コレクション展1 うつわ」(特別展半券入場者数:87,094人) 5月21日~10月16日(開場128日) 110,977人

「コレクション展2 Sea Lane - Connecting to the Islands 航路 - 島々への接続」

(特別展半券入場者数:138,836人) 11月3日-2023年3月19日(日)(開場113日)79,562人

〈特別展〉

「ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ:どこにもない場所のこと」 5月3日~9月4日(開場108日)82,210人

「甲冑の解剖術—意匠とエンジニアリングの美学」 5月3日~7月10日(開場60日)25,911人

「『ひとがた』をめぐる造形」 7月23日~9月11日(開場44日)28,227人

「時を超えるイヴ・クラインの想像力-不確かさと非物質的なるもの」 10月1日~3月5日(開場129日) 188,445人

● 令和5(2023)年度

〈通常展〉

「コレクション展1 それは知っている 形が精神になるとき」4月8日~11月5日(特別展半券入場者数:222,171人) 209,875人

「コレクション展2 電気—音」(特別展半券入場者数:53,544人) 11月18日~12月28日(開場31日)23,008人

〈特別展〉

Alex Da Corte Fresh Hell アレックス・ダ・コルテ 新鮮な地獄4月29日-年9月18日(開場123日) 188,202人

D X P (デジタル・トランスフォーメーション・プラネット) 一次のインターフェースへ 10月7日~12月28日(開場71日) 122,361人

● 令和6(2024)年度

〈通常展〉

「コレクション展1」 6月22日~9月29日(特別展半券入場者数:121,475人)81,915人

〈特別展〉

Lines(ラインズ)—意識を流れに合わせる 6月22日~10月14日 143,702人

3. 主な受賞ランキング

- 2005 日経トレンディヒット商品ベスト30 ★17位
—「日経トレンディ 2005.12月号」日経ホーム出版社
日経優秀製品・サービス賞2005 ★最優秀賞
—日経MJ(日経流通新聞)賞 日本経済新聞社
平成17年度グッドデザイン賞 ★グッドデザイン金賞
—公益財団法人日本デザイン振興会
- 2006 第4回 環境・設備デザイン賞 ★設備器具・システムデザイン部門 優秀賞/BE賞
—金沢21世紀美術館の展示光環境制御システム 一般社団法人 建築設備総合協会
- 2012 今後、最も訪れてみたい美術館・博物館ランキング ★10位
—JTB WEBアンケート(美術館・博物館に関するアンケート調査) 株式会社ジェイティービー
「人気の美術館ランキング」★1位
—「旅行のクチコミサイト フォートラベル」フォートラベル株式会社
- 2013 「外国人が選ぶ! “行ってよかった”クールジャパンスポット」★8位
—トリップアドバイザー
日本展示学会賞 ★作品賞
—開館5周年記念展「愛についての100の物語」展 日本展示学会
- 2014 うらかな春 子連れで満足、美術館・公園ベスト10 ★2位
—何でもランキング2014,4,6 日本経済新聞
- 2014 日本のBEST美術館『建築部門』1位 『展示部門』2位
「CASA BRUTUS 2014年11月号」マガジンハウス
地域創造大賞 総務大臣賞
—一般財団法人地域創造
- 2016 専門家が選ぶ建物が魅力的な美術館・ベスト10 第4位
日本経済新聞プラスワン(7月)
第37回 日本WEB大賞 NWUS協会特別賞
日本Webユーザーズ協会 <http://www.nipponweb.info/event.html>
- 2019 スナップレイス (<https://snaplace.jp/>) 「インスタ映えスポットランキング」2位
スナップレイス (<https://snaplace.jp/>)
- 2022 フジテレビ『めざましテレビ』(7月26日) 全国の美術館TOP5 第3位
(1位 大塚国際美術館 2位 彫刻の森美術館 3位 金沢21世紀美術館 4位 足立美術館 5位 鳥取砂丘 砂の美術館)
- 2024 第65回全国カタログ展2024
図録部門銀賞 国立印刷局理事賞「アレックス・ダ・コルテ 新鮮な地獄」

20年間のデータ

4. 主な奨励・助成制度 受賞履歴

- 2007 美術館活動助成
 〈教育普及〉
 日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド←アウェー」方式
 (2007年8月7日～2008年3月20日)
- 2010 美連協奨励賞(美術館表彰)
 Alternative Humanities
 ～新たなる精神のかたち:ヤン・ファープル × 舟越 桂
 (2010年4月29日～8月31日)
- 2018 美連協奨励賞(美術館表彰)
 「ジャネット・カーティフ&ジョージ・ピュレス・ミラー」展
 (会期:2017年11月25日～2018年3月11日)

5. 金沢21世紀美術館 2024年上半期 利用者アンケート集計

2024年4月～9月の間に、WEBでアンケートの回答を募ったデータをまとめたものです。

〈性別〉

男性	63	54.8%
女性	49	42.6%
答えたくない	3	2.6%

〈年齢〉

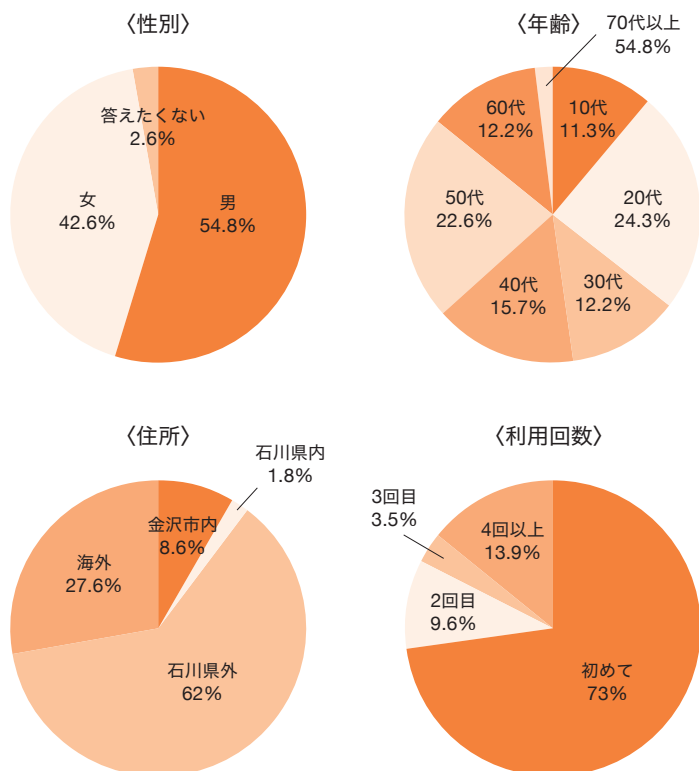
10代	13	11.3%
20代	28	24.3%
30代	14	12.2%
40代	18	15.7%
50代	26	22.6%
60代	14	12.2%
70代以上	2	1.7%

〈住所〉

金沢市内	14	8.6%
石川県内	3	1.8%
石川県外	101	62.0%
海外	45	27.6%

〈利用回数〉

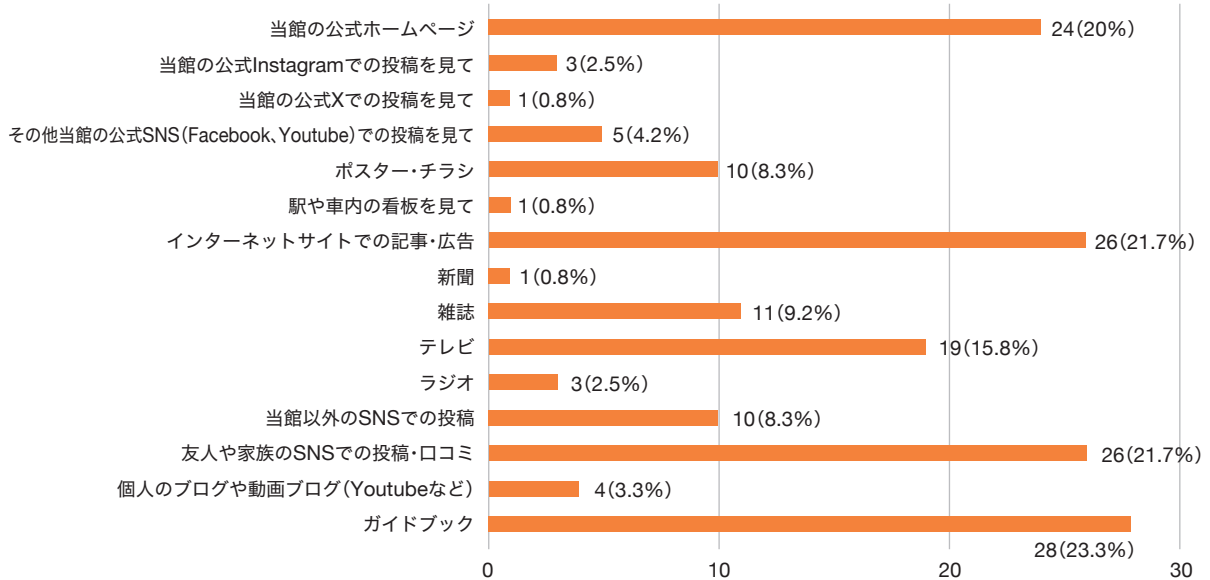
初めて	84	73.0%
2回目	11	9.6%
3回目	4	3.5%
4回以上	16	13.9%



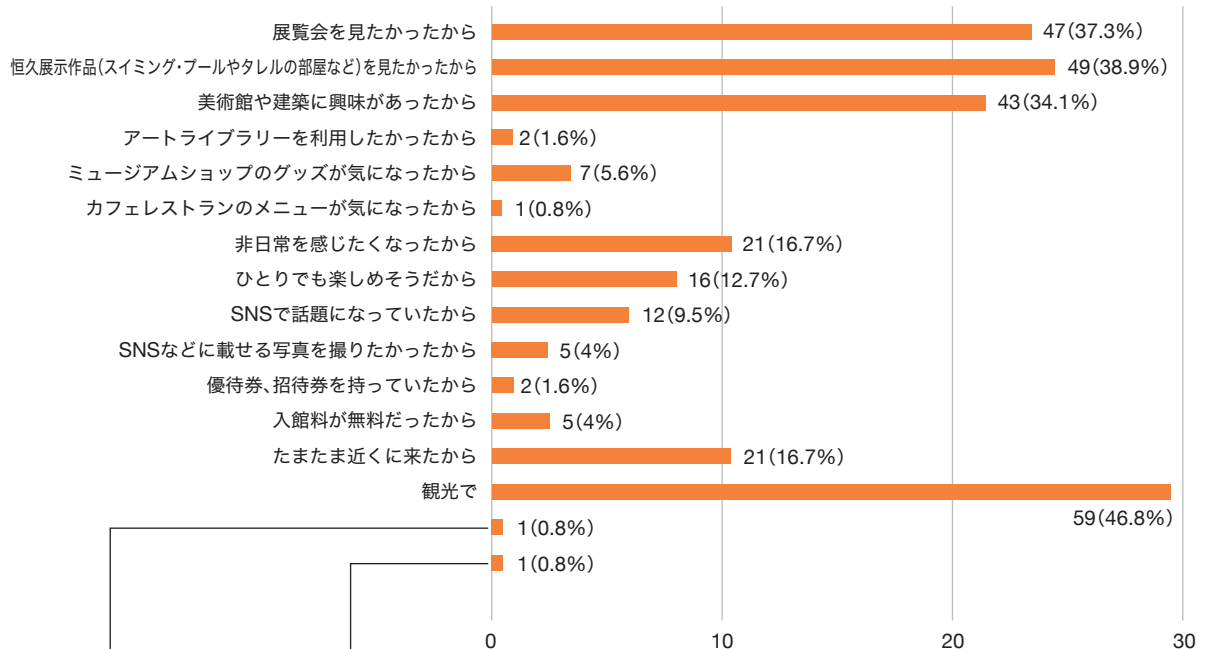
20年間のデータ

6. 金沢21世紀美術館 2024年上半期 利用者アンケート集計

来館のきっかけ



来館の目的



前回金沢を訪れた時は時間がなく兼六園だけ行って美術館前からバスに乗って金沢駅へ戻りました。その時からずっとずっと気になっていたの。

ツーリングで宿を予約してきたが、美術館に来たかったので、雨なら来ようと決めていた。